

過日、中国全土から腹腔鏡下肝切除術を積極的に行っている施設の外科医が集まるシンポジウム（於上海）に呼ばれて参加してきました。驚いたことに、我々日本の肝臓外科医が最も得意とする腹腔鏡下系統的肝切除術を、それもS7やS8領域の系統的肝切除術を我々と全く同じ手技で行っている外科医が数名いました。グリソン枝の根部を露出して処理し、阻血域に沿って肝実質を離断し、離断面に肝静脈を露出するという日本の肝臓外科医のお家芸ともいえる手技です。しかも、この2~3年の間に我々の2倍、3倍の症例数を経験しており、平均手術時間は明らかに我々よりも短い値でした。仲の良い上海の肝臓外科医とこのことについて話したのですが、やはり「腹腔鏡手術はビデオで容易に勉強できるからすぐに上手くなるのだと思う」とのことでした。

High volume centerと呼ばれる施設の症例数が日本と比較して桁違いに多いのは中国に限ったことではなく、私はこれまで、手術の質の向上は症例集約の度合いに比例しないと高を括っていました。しかし、そのような桁違いの症例集約の中で我々日本の外科医と同様にprecise（緻密）な手技を目指して発展している中国の外科医たちを見て私は初めて脅威の念を感じました。決して勝ち負けの問題ではありませんが、数年後には中国の外科医が習得して標準化した手技や技術を日本の外科医が学んで実践するような状況になる可能性は大きいと思います。

内視鏡下手術では術者と同じ術野での手術画像（動画・静止画）を誰もが、しかも繰り返し見ることができしますので、開腹手術よりも相互比較や評価、学習が格段に容易になりました。中国ではこれを個人のレベルアップに大いに活用し、症例を集約できる外科医が短期間に大きく成長しています。我が国では症例が極端に集約することなく、患者のフリーアクセスを実現しつつも高い平均水準の医療を維持しており、そのような現状を考慮すると、これまで通り少しでも多くの外科医が高い水準の腹腔鏡手術を身に着けられる環境をさらに発展させる以外には無いように思います。学術集会や学会誌での手術画像（動画・静止画）のより有効な活用法の検討はもちろん重要ですが、手術ビデオと言えばやはり技術認定制度です。審査基準の標準化は安全かつ推奨すべき手技の標準化に繋がります。審査する側の質の改善にも妥協なく取り組む必要があります。

（本田五郎）

日本内視鏡外科学会雑誌

（第22巻 第5号）2017年9月15日発行・隔月刊

Journal of Japan Society for Endoscopic Surgery (Tokyo)

（1部）定価：本体2,800円＋税 ＊会員には毎号送付されます。

2017年 年間購読料：冊子版16,380円＋税、電子版（個人）16,380円＋税、冊子＋電子版（個人）19,380円＋税（配送料：医学書院負担）＊会員には冊子版が毎号送付され、学会ホームページから電子版が閲覧できます。

編集・発行：日本内視鏡外科学会（代表：渡邊昌彦）

〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-2 大同生命霞が関ビル

日本コンベンションサービス株式会社内

☎ 03-3503-5917 Fax 03-3508-1257 E-mail: info-jses @ convention.co.jp（担当：池田，小倉）

<http://www.jses.or.jp>

Published by Japan Society for Endoscopic Surgery, 1-4-2 Kasumigaseki, Chiyodaku

Tokyo, 100-0013, Japan ©2017, Printed in Japan

発 売：（株）医学書院（代表：金原 優）（本誌担当：水野，安部） <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

<http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/jses/>

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23（振替口座 00170-9-96693 番）

本誌編集室直通 ☎ 03-3817-5707（Fax 03-3815-7802 / E-mail: jses @ igaku-shoin.co.jp）

販売部直通 ☎ 03-3817-5659（Fax 03-3815-7804）

印刷所 横山印刷（株） ☎ 03-3622-6161（Fax 03-3625-1591）

広告申込所 （株）文京メディカル ☎ 03-3817-8036（Fax 03-3817-8044）

- ・本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・貸与権・公衆送信権（送信可能化権を含む）は日本内視鏡外科学会が保有します。
- ・JCOPY（（社）出版者著作権管理機構 委託出版物） 本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、（社）出版者著作権管理機構（電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。

●原著

一般病院における腹腔鏡補助下幽門側胃切除術の導入—本学会技術認定取得者

在職中とその後の手術成績の比較検討神 康之・他 秦野赤十字病院外科
腹腔鏡下および腹式子宮全摘出術後の腔断端感染の危険因子の検討楠木総司・他 順天堂大学医学部産婦人科

●症例報告

腹腔鏡下にて修復しえた横行結腸に発症した特発性成人腸重積症の 1 例中嶋早苗・他 村上記念病院外科
腹腔鏡補助下に整復しえた大網裂孔ヘルニアの 1 例齊藤浩志・他 石川県立中央病院消化器外科
横隔膜上食道憩室に対して胸腔鏡下憩室切除術

を施行した 1 例枝川広志・他 順天堂大学医学部附属順天堂医院消化器・低侵襲外科

●手術手技

単孔式腹腔鏡下手術用デバイスを応用した急性胆嚢炎に対する

腹腔鏡下胆嚢摘出術における手術指導の工夫浅井浩司・他 東邦大学医療センター大橋病院外科

●私の工夫

鮒田式胃壁固定具Ⅱ™を用いた腹腔鏡下腹壁癒痕ヘルニア

修復術の工夫田辺 寛・他 鹿児島大学消化器・乳腺甲状腺外科
右頸部気縦隔アプローチを併用した非胸腔アプローチによる

食道癌根治術東海林裕・他 東京医科歯科大学消化管外科学
「隠し縫い」を用いた腹膜縫合—有棘縫合糸に伴う

合併症予防をめざして亀井 文・他 メディカルトピア草加病院外科・ヘルニアセンター
他に症例報告が数編あります。但し誌面の都合により変更がございます。ご諒承ください。